

モモ新品種 「ふくあかね(モモ福島7号)」の育成

福島県樹試験場 栽培部
平成9年～平成15年度試験研究成績書
分類コード 04-02-03000000

部門名 果樹－モモ－育種・選抜
担当者 小野勇治・佐藤 守・岡田初彦

I 新技術の解説

1 要旨

- (1) 「ふくあかね」は「モモ福島1号」(♀)×「まさひめ」(♂)の交雑実生から選抜されたモモの新品種で2004年4月に種苗法に基づく品種登録を申請した(図1、図2)。
- (2) 開花期は「あかつき」と同時期で、花粉を有する。成熟期は満開から約110日で、「あかつき」より7日程度遅く、育成地において8月上～中旬に収穫できる中生種に属する(表1)。
- (3) 果形は円～偏円形、果重は220～300gで「あかつき」とほぼ同程度と見られる。果皮の地色は白色で、着色は「あかつき」と同程度の着色となる。
- (4) 果肉は白色で、肉質は溶質、果肉内に紅色素が若干見られる。食味は糖度13～15%で甘味が多く、果汁が多い。酸味は少ないが収穫が早い場合や糖度が低いと酸味を感じることがある。日持ち性は「あかつき」とほぼ同程度と見られる(図3)。
- (5) 核割れは「あかつき」より少ない(図4)。裂果は発生しない。

2 期待される効果

「ふくあかね」は、中生種「あかつき」と晩生種「川中島白桃」の間に収穫される品質良好な品種である。栽培性についても比較的容易なため、農家経営に有利な品種として期待される。

3 適用範囲

県内平坦部

4 普及上の留意点

- (1) 摘蕾・摘果の遅れによって果実肥大が劣るため適切な着果調節を行う。
- (2) 枝がやや下垂しやすいため、切り戻しせん定等により適切な結果枝の維持に心がける。
- (3) 収穫が早いと酸味が気になることがあるので適期収穫に心がける。

II 具体的データ等

表1 「ふくあかね」の収穫期及び果実品質(2001～2003年)

調査樹		調査年 (年)	収穫期(月.日)			果実重 (g)	Ri示度 (%)	pH
			始	盛	終			
「ふくあかね」 原木	(7年生)	2001	8.4	8.6	8.8	273	15.8	4.6
	(8年生)	2002	7.30	8.2	8.6	282	13.8	4.4
	(9年生)	2003	8.3	8.5	8.7	230	13.2	4.5
	2001-2003年 平均		8.2	8.4	8.7	261.7	14.3	4.5
「ふくあかね」 苗木	(3年生)	2002	8.8	8.9	8.15	223	15.2	4.6
	(4年生)	2003	8.5	8.10	8.11	218	12.7	4.5
	2002-2003年 平均		8.6	8.9	8.13	220.5	14.0	4.6
「あかつき」	(21年生)	2001	7.30	8.3	8.9	295	13.2	4.6
	(22年生)	2002	7.25	7.30	8.5	258	13.0	4.4
	(23年生)	2003	7.31	8.1	8.4	212	12.2	4.5
	2001-2003年 平均		7.28	8.1	8.6	276.5	12.6	4.5

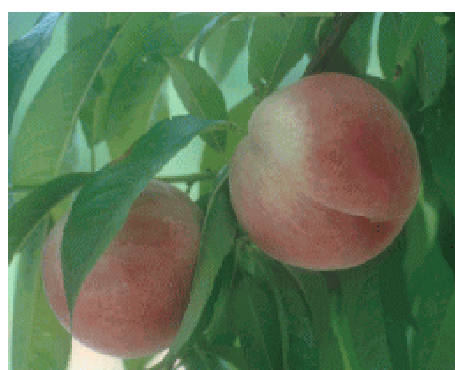


図1 「ふくあかね」

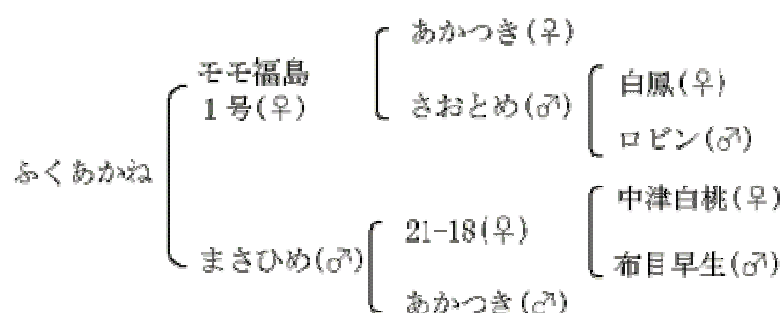


図2 「ふくあかね」の育成系統図

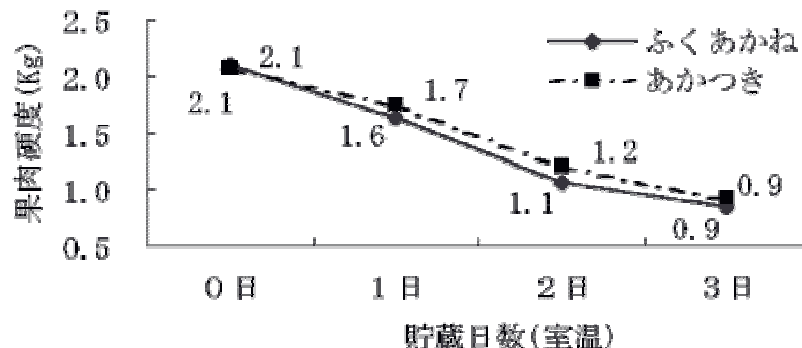


図3 果実の貯蔵日数と硬度(2001～2003年)

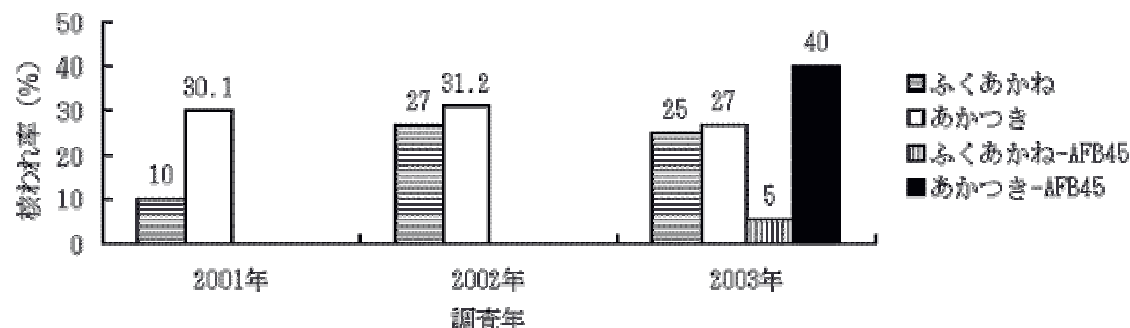


図4 核障害の発生状況(2001～2003年:収穫期の核縫合面の割裂,2003年:AFB45の核割部亀裂)
AFB:満開後日数

Ⅲ その他

1 執筆者

小野勇治、志村浩雄

2 主な参考文献・資料

平成9年～平成15年度試験研究成績書